※令和４年度以降入学生用

学校番号	T1202

令和５年度　教養科

教科	教養	科目	上方芸能入門	単位数	１単位	年次	2～4年次
使用教科書	特になし						
副教材等	プリント・映像資料						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現役の落語家が、その歴史、成り立ち、現在の生活等を説明します。また、上方落語の鑑賞も行い、その楽しさや価値についてじっくり味わいます。講義、鑑賞、そして実習（実演）も含めた授業を実施します。

2　学習の到達目標

上方の落語を学び、鑑賞することにより大衆芸能であることを実感し、また、身近な芸能であることを学習することで、生活や社会を明るく豊かなものにしようとする態度を養う。

(1) 上方の落語の歴史についての知識を身に着け、成立過程、形式などについて幅広く理解するとともに、落語のよさや奥深さを味わうために必要な技能を身につけるようにする。

(2) 上方の落語が大衆芸能であることを踏まえて、落語の創意工夫している部分に着目することができ、また落語を評価しながらよさや楽しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に上方落語の鑑賞等に取り組み、生涯にわたり上方の芸能全般を愛好する心情をはぐくむとともに完成を高め、落語などの芸能によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	上方の落語の歴史についての知識を身に着け、成立過程、形式などについて幅広く理解するとともに、落語のよさや奥深さを味わうために必要な技能を身につけている。	上方の落語が大衆芸能であることを踏まえて、落語の創意工夫している部分に着目することができ、また落語を評価しながらよさや楽しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的・協働的に上方落語の鑑賞等に取り組み、生涯にわたり上方の芸能全般を愛好する心情をはぐくむとともに完成を高め、落語などの芸能によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
半期科目	上方落語の世界	落語の歴史、上方芸能の歴史、その中での上方落語の位置づけについて学ぶ。	a:落語の文化的・歴史的背景、その他の上方芸能との関係性について理解している。 b:上方芸能のよさや美しさを感じ取り、「芸人」の心情や技術、意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 c:主体的に上方芸能及び落語の歴史について学ぼうとしている。	課題	課題	授業内観察
	上方落語の鑑賞	さまざまな上方落語や江戸落語に触れ(ビデオ・実演等で)落語の楽しさ、鑑賞するときのポイントを学ぶ。	a:落語の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 b:落語の価値とその根拠について考え、古典芸能のよさや楽しさを味わって捉えている。 c:主体的に落語の楽しさについて味わおうとしている。	課題	課題	授業内観察
	上方落語の実習	上方落語のきまり、練習方法について学び、自ら演じてみる。	a:落語のきまりや練習方法について理解している。 b:落語を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととのかかわりについて考え、自己のイメージをもって落語の表現を創意工夫している。 c:主体的に落語を演じてみようとしている。	課題	実習課題	授業内観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度